

世界情勢へも目を向けつつ 一人ひとりの生活者のための政策に 真剣に取り組めます。

ロシアの軍事侵略により、お亡くなりになられたウクライナ国民の皆様に対し、心から哀悼の意を表しますとともに、今なお戦禍の中で苦しむ、すべてのウクライナ国民に心からお見舞いを申し上げます。

ロシアによるウクライナ侵略という暴挙は、明らかな国際法違反であり、軍事力を行使し、力による一方的な現状変更は断じて許されるものではありません。ウクライナを支援する国々による制裁措置を強化している中であっても、ロシアは軍事侵略を一向に止めることなく、ウクライナの多くの一般市民が犠牲となっていることに怒りを覚えます。ロシアの軍事侵略は国際社会の秩序を混乱に陥れるものであり、公明党として最大限非難の意思を表明します。

令和4年第2回定例会が6月24日終了しました。会派を代表し、代表質疑を行いました。4月28日に、公明党仙台市議団として「物価高騰から市民生活を守る経済対策等に関する緊急要望」を市長に提出しました。

原油高騰や物価上昇への対応、ウクライナ避難民への更なる人道支援、子育て世帯生活支援特別給付金の早期対応、生活困窮者支援の早期対応、地方創生臨時交付金を活用した生活困窮者対策の実施、学校給食費保護者負担拡大の抑止等、必要な対策を果敢に実行されるよう強く求めました。今般の定例会で提出された議案に多く反映されたところですが、今後も言及してまいります。



仙台市議会議員

佐々木まゆみ

市民防災訓練に参加

(6月10日)

44年目となる6月12日は「市民防災の日」。
本年は3月にも大きな地震が発生しました。防災訓練はいざという時に適切な行動をとるために大変重要です。機会があればぜひご参加ください。改めて、防災・減災への意識を高めてまいりましょう。



自然災害への対応、教育環境対策、コロナ対策、さらにウクライナ避難民支援と幅広い課題に言及。

令和4年第2回定例会 代表質問 6月15日



福島県沖地震による被害への対応について

【佐々木まゆみ議員】福島県沖を震源とする大きな地震が3月16日夜にあり、宮城、福島で最大震度6強の揺れを観測した。罹災証明書の2次調査申請数及び2次調査実施件数は25.6%に留まっている。2次調査の早期対応を求める。

【財政局長】現在、建物の内部調査を希望される方からの2次調査の申込みを受付しており、6月14日現在で722件を受け付け、432件の内部調査を行っており進捗率は59.8%となっている。引き続き申請者の調査希望日を伺いながら、順次迅速な調査に努める。

【佐々木まゆみ議員】中小企業等グループ補助金の申請には罹災証明等が必要になるが、本市申請受付は5月16日で終了している。その後の対応はどうか。

【財政局長】事情を伺い、期限までに申請できなかったことについて、やむを得ない理由があると認められる場合については、期限後であっても柔軟に対応している。

集中豪雨対策について

【佐々木まゆみ議員】津波だけでなく、近年の集中豪雨等にそなえ、実効性のあるマイタイムラインの普及啓発が必要と考えるがどうか。

【危機管理局長】これまで本市では、地域での防災講話や仙台市公式動画チャンネル「せんだいTube」の活用などを通し普及啓発に努めてきており、昨年度からは新たに作成講座を開始した。

これに加え、作成手法を分かりやすく解説したガイドブックの配布とウェブ上で作成できるページの開設、啓発動画の配信などについても予定している。

学校給食の食材調達の現状と今後の見通しについて

【佐々木まゆみ議員】学校給食の食材調達の現状と、

食材費と予算のバランス等を含めた、今後の見通しについて伺う。

【教育長】昨今の食材価格の高騰化においては、栄養バランスや提供量に配慮しながら、献立の変更や食材の切り替えにより対応しているが、今後も高騰が続けばこれも難しくなってくる。

今回の補正により、使用できる食材も広がることとなりこれまで同様に食材の組み合わせや献立を工夫した、子供たちに安全で美味しい給食を提供することができるよう努めていく。

また、供給の安定化や地域農漁業の振興、食育の観点からも、物価の動向を注視しながら地元産食材の活用を進めてまいりたい。

生活困窮者支援について緊急小口資金等の特例貸付について

【佐々木まゆみ議員】緊急小口資金等の特例貸付については、住民税が非課税の場合に償還が免除されることになっている。この償還免除要件の周知徹底が重要であると思うがどうか。

【経済局長】緊急小口資金及び総合支援資金の初回貸付分の借受人のうち、令和5年1月から償還開始となる方や既に償還を開始している方については、借受人ご本人と世帯主の両方が令和3年度又は4年度のいずれかの住民税が非課税であった場合、申請により償還は免除されることになっている。本市及び仙台市社会福祉協議会におきましても、当該貸付制度について周知を行っているが、引き続き、償還免除要件の内容等についても適切に周知していく。

コロナワクチン接種対策について

【佐々木まゆみ議員】ワクチン接種を希望している方の中で、未接種者への方々への啓発、また、5歳から11歳の接種の現状と推進について。

【健康福祉局長】若い世代の方々には、重症化のリスクが低いことや、副反応の経験から3回目の接種をためらう方もいらっしゃる。また、小児接種におきましては、接種効果や副反応などを慎重に検討されている保護者の方々も多くいらっしゃると思っている。接種を検討する際は、正確な情報に基づいて判断いただくことが望ましいと考えている。ホームページの掲載内容や広報手段を工夫しながら、今後とも正確な情報をわかりやすく提供し、接種の促進を図ってまいりたい。

【佐々木まゆみ議員】新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で、带状疱疹を発症する方が急増している。带状疱疹の発症を防ぐ意味から、一定の年齢層を対象に、本市としても带状疱疹ワクチンへの助成を推進すべきと考えるがどうか。

【健康福祉局長】ワクチン接種への対応については、国の動向及び他自治体の状況を注視しながら検討していく。

学校施設の環境教育への活用

【佐々木まゆみ議員】公共建築物の中でも大きな割合を占める学校施設の老朽化がピークを迎える中、国の指導のもと、教育環境の向上と共に、学校施設を教材として活用し児童生徒の環境教育を行う「環境を考慮した学校(エコスクール)事業」が行われてきた。

本事業の活用は、新築や増築といった大規模事業だけではなく「LED」や「二重サッシ」といった部分的な「ZEB化に向けた事業」も、しっかりと周知を行い、できるところから取り組むことが大変重要であると考えているがどうか。

【環境局長】学校施設のZEB化等を進めていくことは、児童生徒が自らの通う学校を題材に環境について学びを深める機会にもなると認識している。

【教育長】補助単価の加算措置がなされるためには一定の条件がある。児童生徒が身近な学校施設から環境について学ぶことは意義あることなので、エコスクール・プラスの制度活用も研究しながら、引き続き環境に配慮した学校施設の整備に取り組んでいく。

ウクライナ避難民の支援について

【佐々木まゆみ議員】本市には4人の方が避難されている。避難者受入れ期間は今年度末となっているが、

来年度以降も継続すべきと考えるがどうか。

【文化観光局長】仙台多文化共生センターが一元的な窓口となり対応している。希望する方に対し市営住宅を提供できるよう確保しているほか、学齢期のお子さんが避難されてきた場合には、希望する言語での学習補助を行う指導協力者の派遣もできるよう準備している。

今後、本市へ避難されてくる方がさらに増えてくることも想定し、1世帯あたり30万円から50万円の生活支援金を創設し、既に支給を開始している。また、医療機関を受診した際の健康保険適用の診療に係る自己負担分の助成を行うほか、すぐに避難先での生活が始められない場合も想定し、一時滞在先のホテルの提供も行うこととした。

こうした支援については、国の支援制度に合わせ今年度末までとしているが、今後の情勢により、避難が長期化することも考えられることから、本市としては国の動向なども踏まえながら、支援の継続の必要性について適切に判断していく。

せんだい青葉山交流広場の音楽ホールと 仙台市中心部震災メモリアル拠点施設の 合築整備の認知状況について

【佐々木まゆみ議員】音楽ホール建設決定の認知度について。

【文化観光局長】今後、様々な形で認知度の向上を図っていく必要があると考えており、基本構想の策定過程においても積極的に情報を発信するとともに、シンポジウムやワークショップの開催などの取組みを通じ、市民の皆様への周知に努めていく。

【佐々木まゆみ議員】来年4月から6月にかけて、青葉山エリアでは、全国都市緑化仙台フェアがメイン会場となり開催される。青葉山エリアに足を運んで頂ける導線、誘導策、更なる認知を高めるための魅力発信が急務であると考えているがどうか。

【文化観光局長】来年の全国都市緑化仙台フェアの開催にあたっては、様々な媒体を活用しフェアやこのエリアの認知度向上を図っていくほか、交通事業者と連携した地下鉄東西線への乗り換えの誘導や、最寄り駅から会場への歩行者導線整備なども行うこととしており、訪れる方々にこのエリアの魅力を発信し体感いただけるように取り組んでいく。

公明新聞に掲載



仙台市 佐々木 真由美 議員

東日本大震災から5カ月たった2011年8月に初当選し、選挙期間中より被災者のさまざまな要望を伺ってきました。「避難所に行きたいけど、体育館のトイレが和式だから行けない」と足腰の弱い方、車椅子の方から切実な声を頂きました。また「学校に洋式トイレがないから行きたくない」と女の子から言われたこともありました。

学校のトイレ洋式化を推進

また、乳がんを患った知人の相談がきっかけで、がん患者が着ける医療用ウィッグ（かつら）の購入費の助成を主張、これを受け、市は18年度から購入費の半額助成を始めました。1人1回、2万円を上限に利用できます。

このほか、以前に視覚障がい者の方から、安全な歩行をサポートする「音響付き信号機」を設置してほしいとの要望を受けたことがありました。そこで私は、視覚障がい者の苦勞を少しでも知ろうと、アイマスクを着けて街歩き、その危険性を調査しました。そして、当時は県議だった公明党の庄子賢一衆院議員と連携し音響付き信号機の必要性を訴え、区内2カ所への設置を実現しました。今後とも「一人」に寄り添い、政策を実現するとともに参院選勝利へ走り抜きます。



イリナさん（右端）と懇談する庄子氏（左端）ら113日 宮城・石巻市

宮城・石巻市で庄子氏

言葉と仕事のサポートを

公明党の庄子賢一衆院議員は3日、宮城県石巻市で、ウクライナから避難しているホンチャロワ・ア・イリナさん（62）一家と懇談した。県議、市議が同席し、日本での生活における課題や要望を聞いた。19年前にウクライナから来日した高橋旺礼南さんが通訳を

ウクライナ避難民と懇談

務めた。イリナさんらは「今は安心して過ごすことができています」と謝意を表した。庄子氏は「地方と国の連携で、きめ細やかな生活支援ができるよう取り組みたい」と応じた。イリナさんは4月16日、母のリディアさん（86）と共に、ウクライナ北部のチェルニヒウ市からポーランドを経由し、石巻市内に住む息子のヴィタリイさん（43）と妻の早坂真由美さん（41）を頼って避難。現在は、母と二人で災害公営住宅に暮らしている。

5月24日 議員になってからの取り組み、実績等の紹介記事



仙台市

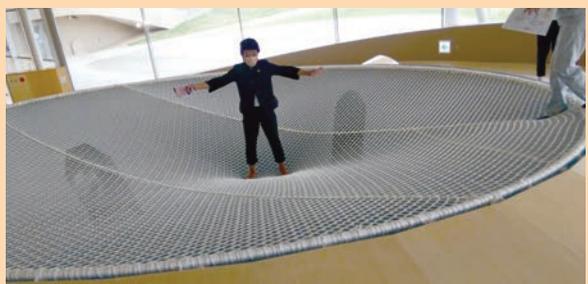
5月28日 郡市長に「要望書」提出

望を行った【写真】。席上、鈴木団長は「地方創生臨時交付金を活用し、きめ細かな対策を」と強調。①生活困窮者自立支援制度に関する民間団体への支援②子どもの食事等支援事業の拡充③学校給食費の保護者負担拡大の抑止④居住支援法人などへの支援の充実など、計15項目を求めた。

郡市長は「要望を受け止め、対策を講じていく」と述べた。



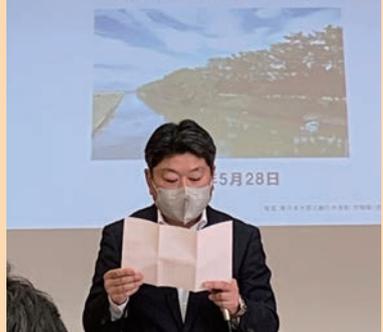
コールT&Tさんと! (6月10日)
諸先輩の方々のご配慮で、母校・高砂中学校の校歌を合唱させて頂きました。懐かしいメロディーに感動でした。



山形市に開設した「シェルターインクルーシブプレイス コパル」(南部児童遊戯施設)を視察 (7月12日)

コパルは、性別や年齢、人種・国籍の違い、障がいの有無など、異なる背景や特性を持つ子どもたちがともに遊べる「インクルーシブ」な遊び場です。令和2年予算特別委員会でご園整備の必要性を市に求め、現在整備中の高砂中央公園内に設置するための検討が始まります。

仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協設立のあゆみ



仙台湾岸運河群の歴史と記憶を伝える協議会設立総会に参加 (5月28日)

佐々木まゆみプロフィール

昭和39年7月仙台市生まれ。平成23年仙台市議会議員初当選(宮城野区選挙区)。現在3期目。【仙台市議会】総務財政委員会、歴史まちづくり調査特別委員会。

日々の活動はフェイスブックを御覧ください。



Facebook